

新たに導入したアサガオについて

井上 尚子・門村 逸喜

1997年3月、元静岡大学教養部教授の米田芳秋氏から、原種 (*Pharbitis nil* (L.) Choisy) に近いと推定されるアサガオ3系統の種子の分譲を受けた。続いて5月には、変化朝顔研究会(東京都港区三田4-8-34)から、変化アサガオ数系統の種子の分譲を受けた。これらを栽培し、一部、8月14日から28日まで当園にて開催された「変化咲アサガオ展」で公開した。その生育および開花状況を報告する。

分譲された種子

1. 米田芳秋氏から分譲されたもの

- ・ネパール産の野生アサガオ(原種に最も近いと考えられている)。1993年採集分 11粒
- ・東京古型 標準型 SU001(日本の栽培系統の中から選ばれ、原種に近い性質を持っている)。

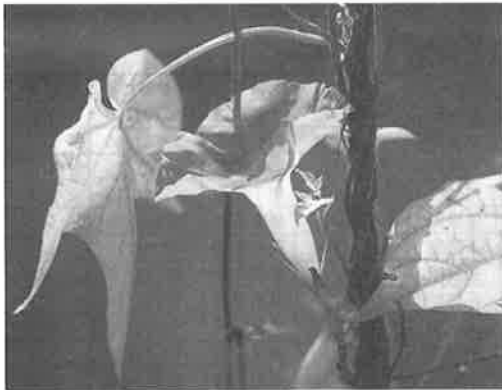


写真1. ネパール産の野生アサガオ



写真2. 東京古型標準型

る)。1995年採集分 17粒

- ・東京古型 標準型 SU002 (SU001と形態的には同じ)。1995年採集分 11粒

2. 変化朝顔研究会から分譲されたもの

(ここに記す品種名は、送付されたときのラベルに記載されていた名称)

- | | |
|-----------|-----|
| ・南天 1-14 | 5粒 |
| ・獅子 A-26 | 13粒 |
| ・枝垂れ | 12粒 |
| ・采咲 | 26粒 |
| ・獅子系 6-12 | 26粒 |
| ・南天 15 | 5粒 |

栽培方法

播種は、5月29日に行った。2、3日前に予め芽切りした種子を3時間吸水させ、パーミキュライトの播き床に播いた。分譲された種子は、全て播いた。発芽した苗の子葉が展開したとき、3号のビニールポットに植え替え、6月30日にそれぞれの株の大きさにあわせて、5~7号の鉢に定植した。用土は、畑土と赤玉土と



写真3. 南天葉アサガオ



写真4. 針葉アサガオ

腐葉土を1:1:1で混合したものを用いた。

生育および開花状況

1. 米田芳秋氏から分譲されたもの

種子はいずれも播種後4日目後に発芽した。

つるの生長は、今回数値的な記録はとっていないが、東京古型標準型SU001、SU002（以下、古型1、2とする）もネパール産も、他の栽培アサガオと比べ、非常に旺盛であった。

開花始めは、古型2が7月15日、古型1が7月31日、ネパール産が8月28日であった（写真1、2）。8月14日から28日までの展示に出品した古型2の花は、朝の10時前後にはしおれはじめ、他の栽培アサガオと比べ、花持ちが悪かった（展示場は午後1時までは日陰。他の栽培アサガオは午後からしおれはじめた。ネパール産はこの期間開花しておらず、古型1は展示に供しなかったため、不明）。開花終わりは、古型2が9月上旬、古型1が9月中旬、ネパール産が11月上旬であった。

花は、いずれも直径5.0~6.5cmの青い丸花で



写真5. 黄姫立田葉切咲



写真6. 青並葉縞吹掛

あった。古型1、古型2は、ネパール産と比べ、色がやや濃くて、紫がかった。

2. 変化朝顔研究会から分譲されたもの

種子は、いずれも播種後4日目後に発芽した。「南天1-14」、「南天15」は、青葉か黄葉かの違いがあるだけで、どちらも南天葉と針葉が3:1で出現した（写真3、4）。南天葉は花つきがよく、種子も多くつけたが、針葉は花が咲かなかった（栽培は11月はじめまで）。「獅子A-26」、「獅子系6-12」、「采咲き」は、いずれも出物は無かった。「枝垂れ」は、播いてみると、様々な形質をもったものが出現した。「枝垂れ」の形質を受け継いでいたのは1株のみで、これは、当園で保有している青斑入蟬葉丸咲の赤花のタイプ（整理記号WCB）と同じものに見受けられた。その他、下記のものが出た。（ ）内は花色を示す。

青並葉丸咲（青）1株

黄並葉丸咲（白）1株

青笹葉白覆輪切咲（濃桃）1株

青並葉縞吹掛（白地に桃）3株

黄姫立田葉切咲（白）1株

マメアサガオ（桃）3株

青縮緬葉台咲（濃桃）1株

以上のうち、「黄姫立田葉切咲」は子葉が非常に小さく、花が多花性、不稔であるなど、「燕性」と類似していた（写真5）。「青並葉縞吹掛」は、8月上旬の開花始めには、花が完全に開かず筒状であったのが、8月下旬には、平開するようになった（写真6）。アサガオには、初期のつぼみがしぼんで開かない「のろま」という遺伝子が知られており（米田、1995）、この品種には、この遺伝子が関与しているのかもしれない。

種子の採集

今年分譲されたアサガオのうち、以下のアサガオの種子を採集した。（ ）内に整理用につけた名称を記す。

- ・ネパール産の野生アサガオ（NEP）
- ・東京古型 標準型 SU001（古型1）
- ・東京古型 標準型 SU002（古型2）
- ・南天1-14（南天青）
- ・南天15（南天黄）

- ・青並葉丸咲 (並青丸)
- ・黄並葉丸咲 (並白丸)
- ・青笹葉白覆輪切咲 (覆輪笹)
- ・青並葉縞吹掛 (のろま)
- ・青縮緬葉台咲 (赤縮緬)
- ・青斑入蟬葉丸咲枝垂 (WP)

並青丸と並白丸は、出物ではないが、何かの親木である可能性があり、次回確認する必要がある。

今後の活用

ネパール産のアサガオは、開花期が他のものより1ヵ月遅く、東京古型のアサガオは、花持ちが悪い(少なくとも古型2は)。したがって、展示会に用いても、花を觀賞してもらうことは難しい。しかし、これらを他のアサガオと比較することで、園芸化されたアサガオは、バリエー

ション豊かであることや、つるの伸び方が鉢植えに向くように改良されていること、花持ちが良くなっていること、などを実感してもらうことができる。

変化朝顔研究会から分譲された変化アサガオには、当園でこれまで保有していなかった興味深いものが含まれていた。しかし、姫立田葉は、親木を確保できなかったので、今回限りの展示となった。「南天青」、「南天黄」及び「のろま」は、当園にない新しい形質を持った品種であり、親木を確保し、今後、展示に用いたい。濃桃白覆輪の切咲や、濃桃色の台咲は、当園で保有する同じ形質の色違いのものと合わせて展示し、彩りを添えたい。最後に、今回貴重な種子を分譲いただいた米田芳秋氏と変化朝顔研究会の皆様へ厚く御礼申し上げます。

園内気象記録

平成9年1月1日～12月31日

月別	気 温 (°C)				降雨量 (mm)
	平均最低	平均最高	月最低	月最高	
1月	-0.6	8.8	-4.1	12.7	(18.0)
2月	-0.8	9.2	-4.3	14.8	(42.5)
3月	4.0	14.3	-0.7	20.7	(95.0)
4月	8.4	17.8	3.4	22.9	(144.5)
5月	13.7	22.6	8.2	26.2	(291.5)
6月	18.3	27.1	14.1	30.9	(180.5)
7月	21.4	28.5	16.2	33.4	(457.5)
8月	22.9	30.7	19.5	33.9	131.5 (131.0)
9月	18.8	26.9	11.6	32.3	376.0 (243.0)
10月	11.2	22.4	4.4	28.7	33.5 (27.5)
11月	8.1	17.9	1.6	21.6	203.5 (168.0)
12月	3.1	12.8	-1.2	17.9	62.0 (61.0)
計					(1860.0)

(参考) 最高気温記録日 8月18日 33.9°C
 最低気温記録日 2月23日 -4.3°C
 最大雨量記録日 欠測

※ () 内の記録は、広島地方気象台で観測された値、その他は広島市植物公園栽培課事務所で観測された値である。(井上尚子)